

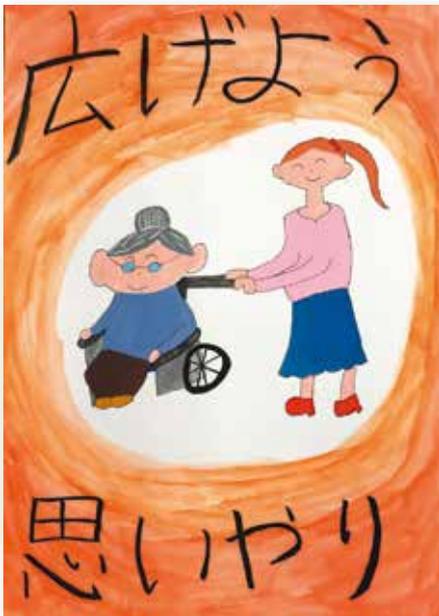
第18回(令和6年度)

大泉町 小中学生 ふくし作文・ポスターコンクール

入賞作品集

《最優秀・優秀・優良》

《小学生低学年 ポスターの部》



最優秀

「おばあちゃんへの思いやり」



大泉町立東小学校
3年
おかざき あいり
岡崎 愛莉 さん

《小学生高学年 ポスターの部》



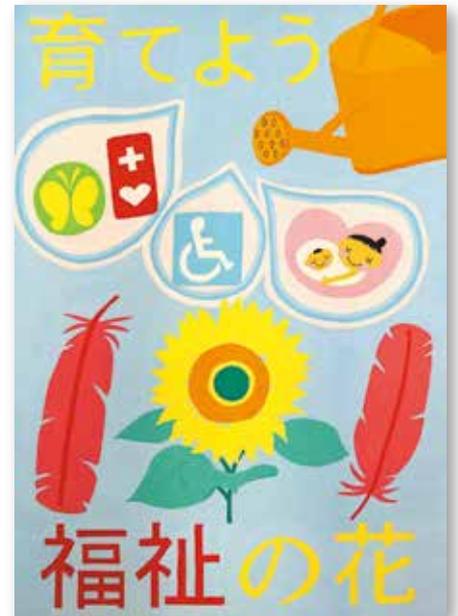
最優秀

「入浴介助」



大泉町立東小学校
6年
こじま ひでまさ
小島 英誠 さん

《中学生 ポスターの部》



最優秀

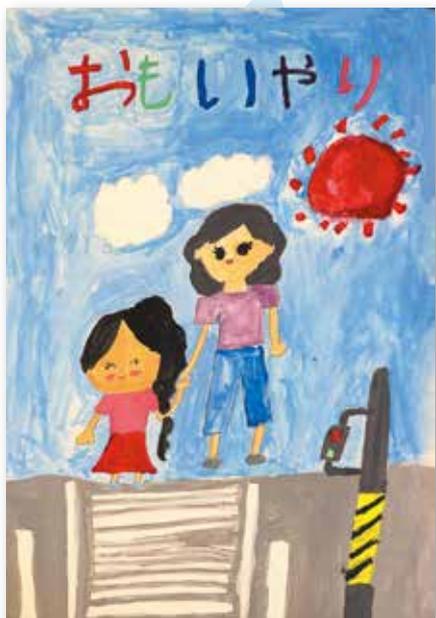
「育てよう福祉の心」



大泉町立南中学校
3年
しげや みさき
渋谷 岬姫 さん

主催：大 泉 町
大泉町教育委員会
大泉町社会福祉協議会

《小学生低学年 ポスターの部》



優秀
「おもいやり」

大泉町立南小学校
1年
こばやし まほ
小林 茉歩 さん

《小学生高学年 ポスターの部》



優秀
「思いやりの心を育てよう」

大泉町立西小学校
5年
かみざわ もあ
神澤 萌愛 さん

《中学生 ポスターの部》



優秀
「福祉のこころみんなに届け」

大泉町立北中学校
3年
ほしの こうき
星野 光希 さん

はじめに

ボランティア活動やお年寄りの介護サービスなど社会福祉の推進が大きな課題となる中で、小・中学生が、家庭や学校、社会生活の中で福祉の大切さや将来の夢などについて考えたり共感したりと、心に残る出会いなどを内容とする作文やポスターを作成することにより、児童及び生徒の社会福祉に対する一層の理解と関心を高めるために、大泉町ふくし作文・ポスターコンクールを実施いたしました。

第十八回目の実施に当たり、町内小中学校七校より、小学生の作文三十四点・ポスター七十一点、中学生の作文百三十二点・ポスター百十二点、合計で三百四十九点のご応募がありました。ご応募いただいた児童・生徒の皆様、応募にご協力いただきました先生方にはこの場をお借りしましてお礼申し上げます。

今回の応募作品は審査委員会において厳正に審査し、十七点の入賞作品を決定いたしました。

各学校からご推薦いただいた作品はどれも素晴らしく、選定に大変悩みました。身近な家庭や実体験を題材にした作品が多く、学校教育の中で自然なかたちで福祉教育がなされている様子を実感するとともに、家庭・地域においても小さな頃から福祉教育が浸透してきていることを心強く思う次第です。

感受性が豊かな時期にいろいろなものを見聞きしたり、体験したり、それを表現したりしていくことは福祉に限らず大切なことと思いますが、次回におきましても本コンクールへのたくさんのご参加とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和六年十一月

大 泉 町

大泉町教育委員会

大泉町社会福祉協議会

令和六年度
大泉町小中学生ふくし作文・ポスターコンクール入賞者

《小学生低学年作文の部》

最優秀	関口陽太	ぼくの おばあちゃん	北小学校 2年
優秀	高木心愛	もうどう犬	西小学校 3年

《小学生高学年作文の部》

最優秀	小沼朔太郎	平等な社会を目指して	北小学校 6年
優秀	倉林佑衣	ふくしの幸せと私のひいおばあちゃん	北小学校 5年
優良	手塚恋羽	施設で暮らすおじさん	南小学校 4年

《中学生作文の部》

最優秀	飯田葉衣里	全ての人が楽しく生きてゆけるために	北中学校 1年
優秀	平田しずく	〴〵思うこと	西中学校 3年
優良	坂本暖琉	思いやる心	南中学校 3年

《小学生低学年ポスターの部》

最優秀	優秀	優良
岡崎 愛莉	小林 茉歩	小林 千恵
おばあちゃんへの思いやり	おもいやり	ふくしはみんなのしあわせ
東小学校 3年	南小学校 1年	西小学校 2年

《小学生高学年ポスターの部》

最優秀	優秀	優良
小島 英誠	神澤 萌愛	手塚 恋羽
入浴介助	思いやりの心を育てよう	離れていても繋がる想い
東小学校 6年	西小学校 5年	南小学校 4年

《中学生ポスターの部》

最優秀	優秀	優良
渋谷 岬姫	星野 光希	牛田 光一
育てよう福祉の心	福祉のこころみんなに届け	共に創ろう 福祉社会
南中学校 3年	北中学校 3年	北中学校 1年



ぼくのおばあちゃん

北小学校2年 関口陽太せきぐちようた



ぼくのひいおばあちゃんとおばあちゃんのことを書きます。

まず、ひいおばあちゃんです。ひいおばあちゃんは、八十九さいです。へんなことを言っ**て**ぼくをわらわせてくれるおもしろいおばあちゃんです。会いに行くと、おかしやおこづかいをくれます。一人でくらししていたけれど、さい近しせつに入りましかしくなったからです。

ひいおばあちゃんを見ていると、食べものをよくこぼします。ぼくは、

それを見て、きたないなあと、思います。だけど、おばさんやおかあさんは、

「年よりだからしかたないんだよ。」

と、言います。あと、ひいおばあちゃんは、

「めまいがする。くらくらする。」

と言っ**て**、すぐにベットによこになります。ぼくは、かわいそうだなあと思います。かみの毛の色は、前は

ちゃ色だったけど、今は、白色です。

ものわすれも多くなっ**て**、火にかけたなべをこがしてしまったり、おしるこにしおを入れてしまったりする

こともありました。しせつにいることは、さびしいけれど、一人でくらすのは、あぶないと思うし、ずっと

いっしょにいてあげられないので、かいごしせつはひつようだと思いま

した。

つぎに、おばあちゃんです。おばあちゃんは二十七さいのときに、の

うこうそくでたおれて、体がふじゆうになっ**て**しまっ**て**、車いすで生か

つしていました。くらしていたば

しよは、こうじのうきのうしようがいしゃしせつです。コロナがはやつ

たので、あまり会えませんでした。

おばあちゃん**の**ことは、あまり知りません。なので、おとうさんに話を

聞きました。

会ったときに、車いすにのついで、大へんだなあと思いました。ほ

くを見て、うれしそうにわらついで、元気そうだなあと思いました。

だけど、びょう気で入いんして、今年の夏にしんでしまいました。六

十四さいでした。おとうさんからでん話があつて、

「おばあちゃん**が**なくなつたよ。」と聞いて、びっくりしました。おそ

うしきは、大へんでした。おじいちゃんやおとうさんは、かなしそ

うでした。ぼくは、ひつぎにしゃしんと手**が**みを入れておわかれをしま

した。天ごくにかざつてほしいです。

ぼくは、ひいおばあちゃんとおばあちゃんを見て考えたことがありま

す。

元気でいるおじいちゃんやおばあちゃんのお手つだいやマツサージを

してあげます。あと、こまつていた

らたすけてあげます。けいろうの日には、手**が**みを書いてあげます。い

つもぼくのことを大切にしてくれる

ので、ありが**た**うの気もちが大切だと思

いました。おばあちゃんやおじいちゃん、ひいおばあちゃんには、元気に長生き

してほしいです。



もうどう犬

西小学校3年 高木心愛たかぎこころな



わたしの家には犬がいます、チワワです。茶色と黒色で、目が大きくてとってもかわいいです。ムーくんという名前です。上を向いておなかを出すところがかわいいです。お母さんとおねえちゃんとお世話をしています。お店へごはんを買いに行つたときに、犬のちよ金ばこがありました。お母さんにこの犬かわいいねと言ったら、お母さんがもうどう犬のほ金ばこだねと言いました。お金がたくさん入っていて、そのお金はどうするんだろうと思いましたが、とってもかわいくてそのほ金ばこはしくなりました。もうどう犬のこととは知っていました。本で読んだことがあるからです。でも、よく知らないのにおねえちゃんと調べました。もうどう犬は目の見えない人、見えにくい人が行きたいときに行きたい場所に行くことができるようにお仕事をしてくれれます。目の見えない人のかぞくになって一緒にくらすそうです。ハーネスをつけていつもいっ

しょについてきてくれます。ラブラドルという犬で、大きくて茶色でとてもかわいいと思いました。目の見えない人たちのお手伝いをするのはすごいと思いました。わたしは目が見えるので、もうどう犬とは一緒にくらしませんが、もうどう犬を育てる人がいると書いてあったので、わたしもそだててみたいと思えました。パピーウオーカーというそうです。もうどう犬のためにお金をつかってくれるなら、わたしもほきんしようと思えました。お母さんにお金をもらっておねえちゃんとほきんしました。わたしのほきんしたお金がもうどう犬のためにつかってもらえるのはうれしいです。

目の見えない、みえにくい人たちのそばでお仕事するのはすごいです。いっしょけんめいおぼえるのもすごいです。もうどう犬を見たことがないので見てみたいです。もうどう犬をそだてる人は、ボランティアの人です。わたしも大きくなったらボ

ランティアしてみたいです。



平等な社会を目指して

北小学校6年 小沼朔太郎 こぬまさくたろう



日本国内には障害をもつ人が十五人に一人いると言われています。しかし、僕が普段生活をしていて障害

者に会うことはあまりありません。僕は、多くの障害者が外出することを困難に感じているのではないかと、障害者のための設備について調べてみることにしました。

まず思い浮かんだのは、音が鳴る信号機です。調べてみると、日本には音声信号機が約二万基あり、群馬県内には二百三十八基設置されています。しかし、驚いたことに大泉町には一基しか設置されていないのです。僕は町で唯一の音声信号機を見に行ってみました。そこは特に人通りが多いわけではないですが、大きな会社の前の信号機だったので、障害のある社員やお客さんにとって便利なのではないかと思いました。群馬県は日本で最も車の所有率が高い県だと聞いたことがあるので、大泉町の視覚障害者は同伴者が車で送迎してくれることが多いかと思いましたが、音声信号機が少ないのではないかと思いました。

次に、駅について調べてみました。

僕の家の近くの小泉町駅に行くと、筆談ボードや点字ブロックが見つかりました。実際に目を閉じながら点字ブロックの上を歩いてみると、足に何か当たるような感じがしました。目を開けてみると、点字ブロックのすき間にたくさんの草が生えていました。僕は、視覚障害者がこの

点字ブロックを歩くと草が足に当たり、道筋が分からなくなってしまうのではないかと心配になりました。利用者が少ないからといって整備を怠ると、田舎に住む障害者は気軽に外に出かけることができなくなってしまう。

僕は、イオンにも行って調べてみました。イオンには、障害者や妊婦などが事前に登録して使う専用の駐車場がありました。僕の祖母がシルバーカーを使っていた頃に、この登録型駐車場を使っていました。介助をしていた祖父に話を聞くと、その駐車場ができる前は優先駐車場が空いていないことが多く、停めること

ができて後から横に近づけて停められることがあり、祖母を乗せ降ろしするのにとても苦労したと話していました。今は祖父も腰が痛いそうなので、専用の駐車場があることで長い距離を歩くことなく利用できて助かるだろうなと思いました。

更に大勢の人が集まる場所ではどのような設備があるのか気になるので、調べてみました。僕は以前ディズニーランドに行った時、アトラクションの途中で突然「流星群を発見した。しばらく停止する。」とアナウンスが流れ、しばらく乗り物が停止していたことを思い出しました。

僕はなぜあんなアナウンスが流れたのか不思議に思い調べてみました。すると、あのアナウンスは車椅子などを使っているゲストに安心して乗り物に乗ってもらうため、一時停止させている時に流れるものだと分かりました。あえてアトラクションで本場にありそうなハプニングを理由にすることで、車椅子に乗っている

ゲストにも他のゲストにも配慮した優しいアナウンスだなと思いました。ディズニーランドのホームページを見て驚いたのは、一つ一つのアトラクションの間際の幅や高さ、車椅子で体験するための道筋などが全て細かく書いてあったことです。これを見れば、障害の程度によってどの乗り物に乗れるのか事前に考えることができ、障害者も安心して楽しめると思います。

今回バリアフリーの設備について調べてみて、障害者が気軽に外出するには色々なハードルがあると分かりました。私達が障害者に出会った時、声をかけたり、手伝ったりすることを当たり前のようにすること、障害者が気持ちよく外出できるようにするのは難しいかと思えます。住む場所に関わらず、障害者が安心して暮らせるように、考えていかなければいけないと思いました。

優秀
小学生高学年
作文の部
ふくしの幸せと
私のひいおばあちゃん

北小学校5年 倉林佑衣



私の家の近くには、ひいおばあちゃんが住んでいます。96才で今は老人ホームのしせつに入っています。たまに、面会というかたちでひいおばあちゃんに会いに行きます。会いに行く時はとてもワクワクした気持ちで、帰る時は「とても幸せな時間だったなあ。」と心から感じます。会う時は、いつもひいおばあちゃんが笑顔でしせつで待っていてくれます。いつも笑顔いっぱいひいおばあちゃんがいってくれるととてもうれしい気持ちになります。

私がしせつへ会いに行つてやつて

いる事があります。それは、ひいおばあちゃんが安心して笑顔ですぐせらるようになるための手伝いです。例えば立ち上がる時に手や体を支えてあげてちよつとも楽に立ち上がれるようにしたりする事です。さらに暑い時、寒い時などひいおばあちゃんの服を変えたりする時には私がひいおばあちゃんの手をやさしくにぎつてそこから出したりする手伝いもする事があります。こんな小さな手伝いでとても大変だけれどもひいおばあちゃんが喜んでくれると私もうれしくなり、幸せな気持ちになり、毎日ひいおばあちゃんに会いに行きたい気持ちでいっぱいになります。ひいおばあちゃんが大変だなあと思う事はそっせんしてやつてあげたいです。また、私の話相手にもなってくれていろいろな話をたくさん聞かせてくれます。そして、私からもふだんの学校生活の話をしたりします。最後まで笑顔で聞いてくれて私はい

れしくなります。

また、一ヶ月に一、二回ぐらい家にもどつてくる事があります。私がひいおばあちゃんに会いに行くと、しせつでも家でもとても喜んでくれます。私がある時やつている事は、ドアを開けてひいおばあちゃんがスムーズに出入りできるようにしたり、手すりがない所をひいおばあちゃんが歩いてどこかへ行こうとした時にはひいおばあちゃんの体などを支えてひいおばあちゃんのペースに合わせて、一緒に歩いたりします。私は、ひいおばあちゃんが、どうしたらうれしいか、喜んでくれるか、笑顔になつてくれるかを第一に考えて行動したいと思つています。そして、いつもにこにこしてくる、幸せな気持ちにしてくれるそんなひいおばあちゃんのためにせめて、私ができる限りはせいっぱい思いやり助け合つてふくしの幸せを分け合いながらもつとひいおばあちゃんを笑顔にさせてあげたいです。

年をとつていくとひいおばあちゃん

の心や体が不安定になつたりおとろえてしまつたり今以上に大変な事やできない事がふえていく事が予想されます。そんな時ひいおばあちゃんが私を笑顔にして幸せにしてくれたい分、私もひいおばあちゃんをもつと笑顔にして幸せになれるように考えて、やさしくせつしたいです。そして、今よりもひいおばあちゃんをもつと大切にしたいです。

ふくしの幸せは、いろいろな人を

思いやつたり助け合つたりする事だけでなく、いろいろな人とのお話などもふくしに入ると私は思います。ふくしの幸せは、自分がふくしと思う事をやつてみて、おたがいに幸せになれる事や、一つの幸せと一緒に分かち合つておたがいが幸せになれる事も私はふくしの幸せだと思えます。ひいおばあちゃんだけでなくお年寄りや障害がある人など全ての人にふくしの幸せを分かち合つていく世の中にしたいと私は思います。そ

のために、私にできる事やみんな

できる事を少しずつでもやつていきたいです。先日、地区のお祭りがあり、山車で近くの老人ホームに行きました。子供から大人までみんながお祭りの雰囲気を感じられ盛り上がった瞬間笑顔になり楽しんでいました。その様子から地域の人たちと関わり一緒に楽しむという事もふくしの幸せの第一歩になると私は思います。



施設で暮らすおじさん

南小学校4年 手塚恋羽 てづかのこは



私の親せきのおじさんは、今太田市のしせつでくらしています。おじ

さんは、私のおばあちゃんのお兄さんです。

一年前まで東京で一人暮らしをしていましたが、病気で入院してからこきゅうが楽になるように、鼻からさんそチューブをつけて生活しなくては、ならなくなっていました。さんその機械はとても重くて、台車に乗せていますが、足も悪いので一人ぐらしが大変になり、親せきみんなまで相談して、一年前に近くのしせつに引っ越しをしてきました。

おじさんには子どもがいないので、私のお母さんが

「お母さんや恋羽が産まれたときはとてもよろこんでくれて、会うといつもオセロやトランプで遊んでくれたんだよ。」

と、教えてくれて、え顔で遊んでいる写真やビデオを見せてくれました。おじさんがしせつに来て、八月でちょうど一年です。まだコロナのえいきょうで、家族はしせつの中に入ることができません。でもマスクを

つければ、外で三十分くらいの面会ができます。

私は時々日曜日におじさんに会いに行きます。チャイムを鳴らすと、しせつのスタッフさんが付きそいながら、さんそボンベを転がしてゆっくりとげん関から出てきます。私の顔を見たしゅん間、目が細くなり、マスクがずれてしまうほど、にっこりと大きく口を開けてわらってくれます。おじさんは私が面会に来るのがとてもうれしいと日曜日を楽しみにしてくれていることをスタッフさんから聞いて、私もうれしくなりました。

外は暑いので、いつも車の中でお話ししたり、デザートを食べたりしてすごします。三十分はいつもあつという間に過ぎてしまいます。おじさんは帰る時、いつも必ず「来てくれてありがとう。」と、言っつけてしせつに戻っていきます。

昔おじさんが産まれて住んでいた太田市の家は今はだれも住んでいま

せんが、私のおばあちゃんも生まれてからずっと住んでいたのでお正月

やお盆、夏のねぶた祭りなど行事があるたびに親せきみんなが集まった楽しい思い出がたくさんあります。おじさんはしせつから外出許可をもらい、去年の冬に一時間だけ、その家に帰ることができました。おぶつだんにお線香をあげたりみんなの写真をとったり、楽しい時間をすごすことができてとてもよろこんでいました。

今年のおぼんもその家に外出予定でしたが最近またコロナが流行り出してしまったので許可がもらえませんでした。おじさんはとても悲しかったと思います。

そして私のおばあちゃんから聞きました。今年のお盆にはその家を取りこわす予定だそうです。どうして取りこわしてしまうのか聞いたら「人が住んでいない家は時々お掃除いかないときれいにたもつことができないし、他にもたくさんお金がかかる

んだよ。」と、教えてくれて、私はおどろきました。

今年の夏はその家ですごす最後のお盆になってしまいました。親せきみんながゲームや花火をして、楽しくすごしました。でも、だんだん家がなくなるのはやっぱりさみしいなと思うようになりました。おばあちゃんも取りこわされてしまう前に部屋の片づけをしています。自分が産まれてすごした家がなくなるのはとても悲しいようでした。

おじさんは、お盆に帰ってくるころができなかった。その分私がかたくさんしせつに会いに行つてあげて。この夏休みの出来事や取りこわされてしまう家ですごした思い出話をたくさん話そうと思います。

そして家が取りこわされる秋までに、コロナが落ちついて、おじさんが元気な体で生まれた家に帰れる日が来るといいなと思っています。

最優秀
中学生
作文の部

全ての人を楽しく
生きてゆけるために

北中学校1年 飯田葉衣里



今年、フランスのパリでパラリンピックが開催される年です。パラリンピックとは、身体障害のあるトップアスリートが出場するスポーツの祭典です。それをきっかけに私は障害をもつ人々について興味をもち始めました。

障害のある選手は、健常者と違って身体的なハンデがあるのになぜ皆の前であんなにも堂々とパフォーマンスができるのか疑問に思いました。私だったら、ハンデを持った自分に自信が持てず、ハンデがあることを

隠してしまうかもしれません。けれど、その選手たちは自信に満ち溢れた表情で戦っており、私たちを感動させます。車椅子でテニスやバスケットボールができたり、目が見えない中サッカーや走ることができて本当にすごいなと思っていました。

「車椅子なのに：」、「目がみえないのに：」と、私は勝手に思っていたのです。そんな私の考えを変えた出来事がありました。国枝慎吾さんという、車椅子テニスプレイヤーがいます。彼は、たくさんの大きな大会で優勝をしました。そんな彼は、「車椅子でテニスをするなんてすごいですね」と言われることに違和感をもつそうです。それに対して私は、ほめられているのになぜそのように感じるのだろうかと思いました。他の障害者アスリートについて調べてみると、彼らもまた同じように語っていたのです。きっと彼らは、自分たちの個性を前向きに受け止めていて他の人にも、良い個性として見て

もらいたいと気付きました。



最近、身近で「共生」や「だれ一人とり残さない社会」という言葉に触れることが多くなりました。みなさんは、これらの言葉をどう理解していますか？以前の私は、「障害者を見かけたら、とにかく手を差し伸べる」ということが正しいと思っていました。しかしこの考えは、障害者の思いとは、かけはなれたものだったのです。

「共生」とは、違いがあることを理解してその人らしく生きていける社会です。これは障害者だけでなく、どんな立場にある人たちにも当ては

まります。つまり、みんなが自分らしく幸せに生きていくには、相手の思いに耳をかたむけて思いを知ることが大切です。自分勝手な思い込みや偏見で人に接してしまうと、知らず知らずのうちに、傷つけたり違和感をもたせたりしてしまうからです。小学生の頃、総合の時間に点字や手話、ブラインドウオークなどの体験をしました。新鮮で楽しかったけど、自分の生活に関係するものだとあまり思えなかった気がします。しかし今思うとそれらの学習は、さまざまな人がいることや、その人について正しく知るために大切な学習だったのだと気づきました。

今年のパラリンピックもまた、私たちが障害者について正しく知る機会なのだと思います。「車椅子なのに：」や、「目が見えないのに：」とただ見るのではなく、選手たちのパラリンピックにかける思いや個性についても意識を持っていききたいと思いました。

世の中には、さまざまな人が暮らしています。障害の有無、身体的特徴のちがいが、興味関心のちがいなど本当にさまざまです。まず私ができることは今まで身近なことではないと思つたことにも目を向け、自分の生活と結びつけていくということだと思います。まずはパラリンピックを見て彼らの活躍を全力で応援したいです。それは、彼らが本当に望んでいたことでもあるからです。



思うこと

西中学校3年 平田つづみ



みなさんは、困っている人を見か

けた時、動くことはできましたか？ 私は、一步を踏み出すのに時間がかかってしまいます。道徳の授業では、「絶対に助けられる！」という自信があつたのですが、実際に、となると難しいと思います。ですが、ここで素早く丁寧な対応ができたなら、[〃]かつ[〃]こいい人[〃]になれると思いませんか？

私の祖母は、数年前から認知症になつてしまつて、「あれ、私、持つてきたの、これだけよね」や、「あなた今いくつ？」など、多い時には六回、聞いてくることがありました。でも、昔のことは覚えていたようで、よく父の幼い頃や祖母自身のおもしろい話など聞かせてくれます。楽しい話ももちろんですが、よく変顔を二人でしたりしています。私がふざけたら、ふざけ返してくれるのが、祖母の良いところです。祖母とは、中々会うことができないので、たまに、心配になってしまいます。しかし、会う度に祖母の顔は、明るく、

幸せそうに見えます。「なぜだろう」と考えた時、祖母の生活には、規則正しい生活、楽しみ、そして、支えてくれる人がいるからだと思ひました。一步を中々、踏み出せずにいる私にとって、[〃]かつ[〃]こいい人[〃]とはこういう人たちなんだと実感しました。

七月三十日、介護体験に参加しました。昨年も、参加していたのですが、今回は、祖母はもちろん、祖母以外の人に、一步を出して、お手伝いができるようになることを目標に参加しました。

参加してみて、生徒さんや先生方は、温かく、何より笑顔で、私たちに接してくれました。車椅子の使い方とも素早く、丁寧でした。そして、先生の話の中で、「大切なのは、気持ちに寄りそえること、何かしなくてもいいから、まずは思うことが大切です」とおっしゃっていました。確かに、私は、つい、「何かしなくちゃ」と焦っていたのかもしれない

ん。大事なのは、[〃]思う[〃]こと。何ができるのは、きつと、思うことができたからなんだと、お話を聞いて思いました。

そして、イオンのチーズケーキ屋さんにお母さんで行つた時、隣に、おばあさんが来ました。チーズケーキのレプリカを見ると、私に、「これ、baumクーヘン？」と聞きました。私は、焦つてしまつて、「あつ、チーズケーキですつ」と、一文字一文字強調するかのようになり、喋つてしまいました。言い終わった後、私は、恥ずかしくなり、顔が、赤くなつていたかもしれない。ですが、おばあさんは、そんな私を気にせず、会話を続けてくれました。「これは何が違うの？」「こっちはレモン味です」と会話していると、「あなた、店員さん？」と間違われてしまいました。でも、店員さんのように、教えることができたのなら、良かったと心が温まりました。「これはbaumクーヘン？」と聞かれた時、介護体験の

優良
中学生
作文の部

思いやる心

南中学校3年
坂本 優琉さかもとあいる



私には、ひいおばあちゃんがいる。夏休みになり、久しぶりにおばあちゃんの家に行った。いつもと変わらず、明るいひいおばあちゃんが、

先生のお話が浮かびました。今思えば、「思う」ことができたから、教えることができたのかなと思います。

大切なのは、「助けなきゃ」と考えるよりも、どう「思う」のか、何ができるのか考えること、そうすれば、一歩が自然と出る、「かつこい人」に近づけたような気がします。

「大きくなったねえ。」

と私を迎えてくれた。ひいおばあちゃんは、「足腰が悪くなっちゃったんだ。」

「家の中でも杖を持たなくちゃなんだ。」

と言った。

私は、事実を認めるのに少し時間がかかった。なぜなら、ひいおばあちゃんが言った時、昔のことを思い出したからだ。それは、ひいおばあちゃんの足腰がまだ悪くなかった頃のことだ。ひいおばあちゃんに会いに行く時、毎回のようにお庭にある小さい畑で、ひいおばあちゃんが一生懸命育てている野菜をとったり、水をあげたりしていたときのことを思い出し、もうこのようなことをするのが難しくなるんだと悲しくなってきたからだ。

さらに、それと同時に私は、小学校の頃に体験した、障害者体験をやったときのことを思い出した。足腰の悪いお年寄りの体験もした。そ

れは、思っていた以上に大変だったことを覚えている。高いところにある物を取ろうとしたり、低い姿勢になることはとても大変だった。さらに、歩く時には、足が重く感じ、若い人と同じようには歩けずとても辛かった。体験をする前は、杖があるほうが邪魔だろうと思っていたが、杖があるほうが体への負担が少しからなくなるのがわかった。このような体験をしたことよって、ひいおばあちゃんの気持ちも少し変わった。また、思いやる心が大切だと改めて感じた。



私は、身近にいるひいおばあちゃんが少しでも負担のかからない生活

をするためにできることはないか考えてみた。その結果、おばあちゃんの家に行った時に、大変そうだったら代わりにやってあげたり、優しく声をかけてあげたりして、不安を少しでも無くしてあげることだと思つた。人を思いやる心を持ち、適切な行動ができるようにしたい。全てを手伝うことはできないが、少しでも楽にしてあげたいと思つた。

私のひいおばあちゃんは明るく、元気に、優しく声をかけてくれる。これからは私が明るく、元気に、優しく声をかけてあげる番だ。ひいおばあちゃんの不安を少しでも無くしてあげたい。私の一番身近にいるひいおばあちゃんだけでなく、今は、高齢化が進んでいるので、お年寄りの方に会うが増えると思う。困っている人がいたら、自分から声をかけてあげられる人になりたい。私はそんな、人を思いやる心をもてる人になりたい。

●審査員の紹介（敬称略・順不同）

岩瀬 寿夫（大泉町社会福祉協議会会長）
笠松 智広（大泉町社会福祉協議会常務理事）
岡田 健児（大泉町教育委員会教育指導課長）
竹田 淳一（町内小学校校長代表 北小学校校長）
柿沼 和広（町内中学校校長代表 南中学校校長）
須永 俊彦（大泉保育福祉専門学校校長）
酒井 清（大泉町役場福祉課長）
星 愛理（群馬県立西邑楽高等学校 国語担当教諭）
鈴木 康弘（群馬県立西邑楽高等学校 美術担当教諭）

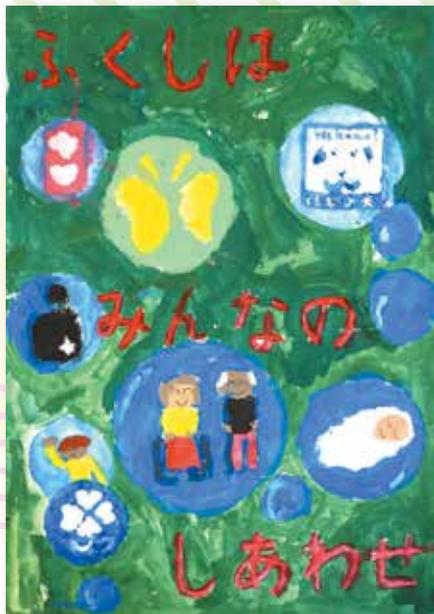
第18回（令和6年度）

大泉町小中学生ふくし作文・ポスターコンクール入賞作品集

発行日 令和6年11月

発行 社会福祉法人 大泉町社会福祉協議会
〒370-0523 邑楽郡大泉町吉田 2465 番地
電話 0276-63-2294

《小学生低学年 ポスターの部》



優良

「ふくしはみんなのしあわせ」

大泉町立西小学校

2年

こばやし ちえ
小林 千恵 さん

《小学生高学年 ポスターの部》



優良

「離れていても繋がる想い」

大泉町立南小学校

4年

てつか この は
手塚 恋羽 さん

《中学生 ポスターの部》



優良

「共に創ろう 福祉社会」

大泉町立北中学校

1年

うしだ こういち
牛田 光一 さん

